第10回 御前崎市民公開講座

リウマチと膠原病のはなし

平成24年
2月25日(土)
開演 14:30　閉演 17:00
場所 市立御前崎総合病院　2階講堂

●開会の挨拶
14:30～14:35

御前崎市　石原 茂雄 市長
総合司会　市立御前崎総合病院　病院長　大橋 弘幸 先生

●講演1 「リウマチはなおる」
14:35～15:05

演者　市立御前崎総合病院　病院長　大橋 弘幸 先生

休　憩　10　分

●特別講演 「意外と身近な免疫の病気」
15:15～16:15

座長　阿部医院　院長　阿部 裕和 先生
演者　浜松医科大学第三内科　講師　小川 法良 先生

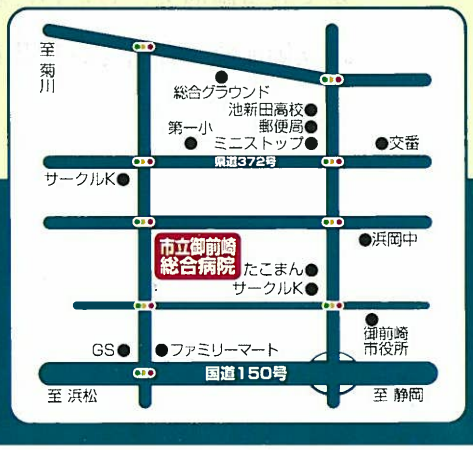
●質疑応答　16:15～16:30

司会　市立御前崎総合病院　病院長　大橋 弘幸 先生

●閉会の挨拶
16:30

市立御前崎総合病院　病院長　大橋 弘幸 先生

駐車場に限りがありますので乗り合わせの上お越し下さい。



お問合せ　※事前の申込は不要です。　手話通訳あり｜入場無料

市立御前崎総合病院　TEL 0537-86-8511
ノバルティスファーマ㈱　TEL 053-457-0521

主催：御前崎市・小笠医師会・ノバルティスファーマ㈱
後援：NHK静岡放送局・静岡新聞社・静岡放送・中日新聞東海本社・朝日新聞静岡総局
読売新聞静岡支局・毎日新聞浜松支局・郷土新聞社・御前崎ケーブルテレビ（順不同）

第10回　リウマチ・膠原病について

私は、昭和56年4月に浜松医科大学を卒業して、内科研修医生活をはじめた。もともと学生時代から免疫学に興味があり、全身性エリテマトーデスなどの自己免疫疾患の多彩な症状やその病気の原因について知りたいと考えていたため、免疫内科を志望していた。医師となって接する患者さんたちは多種多様であり、狭心症の中年男性、白血病の中年女性、多発性骨髄腫のお爺さんあるいはバセドウ病の若い女性などの主治医となり毎日忙しく働いていました。研修医として一生懸命治療したつもりでしたが、力及ばず患者の死を看取ることもたびたびあり、悲しみで涙が止まらぬこともありました。この研修医時代の最もネガテイブな思い出は、リウマチ患者さんから言われた言葉「あんたは、私がどのくらい痛くて苦しいのかわからないでしょう！！採血も下手だし私のところに来ないで！」でした。この最初に担当した関節リウマチ患者は、今考えると難治性のリウマチでプレドニンを15ｍｇ／日と痛み止のナイキサン、ボルタレン坐薬を使用し、体はぶよぶよ肥満し、満月様顔貌、高血圧、糖尿病を合併して始終イライラしていました。今考えるとこの患者さんは、未熟な医療の犠牲者であったかと思います。現在なら、プレドニンを減量して副作用を軽くし、リウマチの痛みを軽く出来ます。しかし、その当時、私は深く傷つき、その後の4年間は一切リウマチ患者を担当しませんでした。「リウマチ気質」という暗くて、しつこく、疑い深く、人を誉めないリウマチ特有の性格があると考えていました。「リウマチは診たくないな！！」というのがその当時の本音でした。実際は、「リウマチ気質」は患者が毎日毎日痛みに苦しみ、他人にはその痛みが分かってもらえず、治療法がなく徐々に関節の変形を来たし、肢体不自由になるために徐々にこのような状態に追いやられるのだと思います。リウマチの初期で完全に痛みから解放された今の私の患者さんは、このような「リウマチ気質」の人はいません。今から30年以上前の時代は、まさに暗中模索の時代でした。

そして今は、リウマチの痛みのみでなく関節の破壊も止め、治癒をめざす時代となりました。リウマチを治療している医師は治したいから治そうに変わってきています。実際に新しいリウマチの薬が次々に開発され、使い方を覚えるのも大変なくらいのスピードでリウマチの治療は変化しています。リウマチは治療できます。私と一緒にこの難病を治しましょうと言える時代となりました。今回の市民公開講座では、関節リウマチのみでなく膠原病の最新の治療法を聞く事ができる講演会としたいと思います。また、皆さんのご質問にもどしどしお答えします。今回は市立御前崎総合病院が会場ですが、ふるってご参加ください。

市立御前崎総合病院

病院長　大橋　弘幸